

安曇野ブランドデザイン会議の進ちょく状況などをシリーズでお伝えします

白井吉見文学館 「友の会」秋の講演会

■日時 11月8日(土)
午後1時30分
■場所 堀金総合支所別館大会議室
■講師 藤岡 筑邨さん
■演題 「ある山小屋での出来事」から「安曇野」まで
※事前申込不要・入場無料
白井吉見文学館
(TEL 72・5796)

穂高陶芸会館 親子陶芸教室

穂高陶芸会館では、文化の日に合わせて親子陶芸教室を開催します。親子での作品づくりを通して、文化の秋を体感しませんか。
■日時 11月3日(月・祝)
午前9時～(2～3時間程度)
■場所 穂高陶芸会館
■講師 嶋田 好貴さん
■対象 小学生以下のお子さんとその保護者



地域の恵みを実感

福祉部会・ぬかくど隊

稲刈り体験

豊科南小学校4年3組の皆さんが9月25日、ぬかくど隊と一緒に小学校近くの田んぼで稲刈りを体験しました。参加したほとんどの児童は、稲を刈るのが初めてで、稲を手で刈り、はぜに掛けるまでの作業を丁寧に学びました。
最後は、あぜに座りながら、ぬかくど隊が炊いたぬかくどご飯のおにぎりを食べ、郷土の恵みを体感しました。

■定員 30人程度(先着順)
■受講料 大人1,000円
子供 800円
(粘土500グラムと指導料・焼き上げまでの料金含む)
■申し込み 穂高陶芸会館へ電話でお申し込みください。
穂高陶芸会館
(TEL 82・6750)

明科図書館 人形劇団やまんば公演

松本市の「人形劇団やまんば」による人形劇です。「たぬきのおつきみ」ほか2つの作品が公演されます。秋のおつきみにどんなことが起こるのか、楽しみにお出かけください。
■日時 11月15日(土)
午後1時30分
■場所 明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」ハートモニターホール
■入場料 無料
■定員 50人
明科図書館
(TEL 62・1122 FAX 62・1124)

安曇野豆文庫プロジェクト

豆文庫第2弾販売!

安曇野豆文庫第2弾として、第2号から第5号が完成しました。市内外の書店、土産店、旅館・ホテル・ペンションなど(販売店は市ホームページに掲載)で販売します。



約6.5寸四方の手のひらサイズ

拾ヶ堰景観形成プロジェクト

秋の拾ヶ堰を満喫!

安曇野が誇る拾ヶ堰の歴史と魅力を多くの人に紹介し、その景観を守る活動を進めるため、カヌー、草取り、ぬかくどの体験イベントを9月27日、拾ヶ堰沿いにある自転車広場で行いました。

この日は30人ほどの参加者が6月に植栽したシバザクラ周辺の草を抜き、また、指導者のアドバイスを受けながらカヌーを体験しました。終了後は、ぬかくどの由来や炊き方を学び、出



拾ヶ堰でカヌー体験

来上がったおにぎりを食べるなど、秋深まる拾ヶ堰で楽しいひと時を過ごしました。

安曇野モデル〈住宅〉プロジェクト

ご意見の紹介

広報8月号で「省エネ、エコにかかわる設計」について、ご意見を募集したところ、二重サッシ、外断熱、太陽光発電システム、オール電化、屋根裏、床への断熱材の使用が望ましいといった要旨のご意見をお寄せいただきました。

ご意見の募集 ～室外環境設計～

今回のテーマは、室外環境(外観デザイン、外構、緑化)です。皆さんのご意見をお寄せください。

【募集期間】

10月23日(木)～11月6日(木)

【応募方法】 書面で下記までお寄せください。

問い合わせ・申し込み

〒399-8211
安曇野市三郷明盛 4810-1
三郷総合支所内
安曇野ブランドデザイン会議事務局
(TEL 77・3111 FAX 77・6060)

ドキドキ・ワクワクお話の世界 11月のおはなし

豊科 ちいさいたんぼ(幼)・おはなしたんぼ(5歳以上)
豊科公民館和室 (TEL 72・2158)

21日(金) 11:00～(幼児対象)
16:30～(5歳以上対象)

穂高 おはなしとしょかん
穂高会館講義室 (TEL 84・0111)

22日(土) 10:30～(幼児対象)
11:20～(5歳以上対象)

三郷 ポケットの会
三郷公民館児童室 (TEL 77・2109)

8日(土) 10:00～(幼児以上)

堀金 おはなしのへや
堀金図書館児童コーナー (TEL 72・5796)

12日(水) 10:30～(乳幼児対象)
21日(金) 16:15～(小学生・園児対象)

明科 ひまわりおはなしの会
明科図書館内おはなしの部屋 (TEL 62・1122)

22日(土) 11:00～(幼児対象に続いて5歳以上対象)



おすすめの1冊
ししおど
鹿踊りのはじめ
宮沢賢治 作
たかしたかこ 絵

紹介する人

伊東 登美子さん (豊科高家)

夕暮れの野原で風から聞いた「鹿踊りのほんとうの精神を語りました」と始まる。

ひざを悪くした嘉十は、西の山へ湯治に出掛けた。途中休んだ所へ手ぬぐいを忘れて引き返す。鹿が6匹そのまわりを回っていた。すすきの陰からのぞいていると、突然耳がきいんと鳴って、鹿の言葉が聞こえてきた。鹿は手ぬぐいを不思議がり、その正体をめぐっているいろいろな問答をすと、やがて嘉十が置いた1個の柘の団子を分け合って食べ、太陽を拝むように、水晶の笛のような声で次々に歌い始める。嘉十は思わず飛び出してしまい、鹿は驚いて逃げ去ってしまった。

秋の野原で自然と動物と人間が一体化し、また、鹿の会話や様子がなんととも楽しい作品です。